

■ IV群の評価

◎良い4点 ○まあ良い3点 △努力2点 ×1点関連がない・不十分

群	下位項目	評価内容と基準	平均	コメント	方向性
IV	教授・学習・評価過程	25 当該授業の内容は、教育課程との関係において当該学生のための授業内容のまとまりとして考えているか	3.7	<p>・IV群は、具体的な教育活動における教授・学習・評価過程を示す評価項目となっている。教材観・学生観・指導観を下に展開した授業の評価は、科目担当者と看護学領域で行っている。その中で不十分さがある評価項目に関しては授業担当者のみで解決しない科目もあり、科目間の調整については分野や看護学領域をまたいでの実施も要する。達成度を高くするなるためには、評価の根拠を共有し整合性をとっていくための検討の場が必要となる。特に評価点3.0～3.3点や2点評価者のある評価項目においては早期に対応していく。</p> <p>・評価項目28については、個々の把握状況にも左右されやすい要素がある。特に外部講師はどの科目で何をどの程度まで教授されているか分かりにくく、各カテゴリー担当者で明確化して授業のうち合わせを実施していく必要がある。</p> <p>・評価項目18の“教育課程を評価する体系”の整備にも係わる内容として対応していく。また、体制の明確さの不十分さがある内容については明文化していく。</p>	<p>教授・学習・評価過程の共有と改善のための整備。</p> <p>外部講師の教授実績の把握と調整。</p>
		26 授業内容のまとまりづくりの考え方は、科目目標との整合性を踏まえて明確に述べているか	3.5		
	看護学としての妥当性	27 授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある内容となっているか	3.6		
		28 当該授業内容と他の授業内容との関連において、重複や整合性、発展性などについて明確になっているか	3.0		
	授業内容間の関連と発展	29 履修形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容のまとまりづくりに応じた形態を選択しているか	3.5		
		30 授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践しているか	3.3		
	授業の展開過程	31 当該授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援しているか	3.4		
		32 学生に対し効果的な教育指導を行うにあたり、教員間の協力体制を明確にしている	3.2		
	目標の到達の評価とフィードバック	33 評価と指導の表裏一体性を踏まえた評価計画が立案・実施され、評価結果は、実際に授業が改善されているか	3.3		
		34 可能な限り、学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れ、目標の達成状況を明確に捉えているか	3.0		
	学習への動機付けと支援	35 評価の方法について、特に単位認定のための評価については、学生に公表(認定基準等)し、公平性があるか	3.5		
		36 シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性をもって、学生の学習への動機付けと支援になっているか	3.6		
IV群平均			3.4		